

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年2月18日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4270201538
法人名	有限会社アニマート
事業所名	有限会社アニマート グループホームさわやか
所在地 (電話番号)	長崎県佐世保市瀬戸越町2-1788 (電話) 0956-41-0233

評価機関名	SEO (株)福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成 21年 1月 15日	評価確定日	平成 21年 3月 5日

## 【情報提供票より】(平成 20年 4月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 2月 1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	12人	常勤	8人, 非常勤 4人, 常勤換算 10人

### (2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造 造り	
	2階建ての	1階 ~ 2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000円	その他の経費(月額)	6,000円
敷金	有( )	〇無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( ) 〇無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	200円	昼食 350円
	夕食	350円	おやつ 100円
	または1日当たり		1,000円

### (4) 利用者の概要(平成 20年 4月 1日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名	
要介護1	4名	要介護2	1名			
要介護3	0名	要介護4	2名			
要介護5	2名	要支援2	0名			
年齢	平均	85歳	最低	77歳	最高	96歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	松本内科・東歯科・久保内科病院
---------	-----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成15年開設のグループホームさわやかは、ホーム長が、「楽しく余生を送らせたい、あるがままに自分らしくあってほしい」という想いを込めて開設されたホームである。ホームの隣には広い畑があり、調理専門の職員による新鮮な採れたて野菜を使った料理や、ホーム長手作りのおやつが毎日提供されるなど、食に対する取り組みにも力を入れておられる。“ご利用者が主役”という理念のもと、ご利用者のペースに合わせた支援を目指し、職員は日々取り組んでいる。地域との交流も盛んで、口こみでのボランティア訪問も多く、多種のレクレーションが毎日のように行われ、ご利用者の楽しみの一つとなっている。ホーム長やホーム長の奥様(理事)、計画作成担当者が看護師ということもあり、ご利用者の体調管理には十分な配慮がされている。ご家族への報告もこまめに行われていることで、ご家族が親を“預けて良かった、家にいる頃より笑顔が多い、幸せそうにしている”などの感想がいただけ、安心してホームにお任せできるという評判からか、入居待機者も多い状況となっている。最低1日1回は、ご利用者に笑っていただけるような明るいホームを目指し、職員一丸となって日々介護に取り組まれているホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の外部評価結果を基に、職員と話し合い改善計画書を作成し以下の改善に取り組んだ。①ホーム便りを配布するなど、市の担当者に対し積極的な情報提供を行った。②職員を育てる取り組みとして、計画的な研修計画を立て、受講できる体制作りを行なった。③グループホーム連絡協議会へ参加し、情報収集や意見交換に努めている。④ホーム便りに職員の異動を掲載し、ご家族にお知らせするようにした。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) ホーム長が評価の目的や活用方法について説明し、職員で分担して話し合いながら自己評価を行い、管理者がまとめる際、職員と話し合い、項目についての説明を加えた。前回の外部評価結果に基づいて運営推進会議で報告し、参加者の意見・要望などを確認した。出された意見を元に改善策を全職員で検討し、改善計画書を作成し改善に向けた取り組みが行われている。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) ご家族、市職員、公民館長、民生委員、ボランティアの方をメンバーとして2ヶ月に1回開催している。在宅介護の問題点、介護教室の運営についての課題などを報告し意見交換が行われている。会議への積極的参加を促す為に、会議で出された意見に対するホームの取り組み状況や、取り上げて欲しい内容をお尋ねしたり、次回の議題に関する資料を予め配布している。出席者からの意見を元に、地域住民にアンケートを実施し、公民館長の依頼で地区の担当者がアンケートを配布し、回収していただくなどの協力も頂くことができた。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 日々の様子を写真に撮り“さわやか便り”に掲載し、出納帳のコピーと領収書・請求書を一緒に送付し、家族来訪時に日頃の暮らしぶりを報告している。定期受診結果は、薬の変更や体調に変化がない時でも、受診当日か翌日に電話で報告している。前回の外部評価以降、職員の異動についてもさわやか便りに掲載し紹介している。ご家族から頂いたご意見に対してその都度対応し、状況説明等を行っている。行事案内を郵送する時に意見・要望を書いて頂く用紙を同封し、ご意見と共にお礼の手紙を頂いたりしている。ご意見等を頂いた時には職員間で情報共有し対応策を話し合っている。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 保育所の芋ほりやおゆうぎ会に招待されたり、公民館祭りへ参加したり、誰もが通るホーム周囲の道を利用者と共に草刈し、近くの川掃除等はホーム長や職員がボランティアで行っている。町内会に入っているご利用者もおられ、地域の寄り合いに参加している。市の委託による介護教室やホーム長の知人に講師を依頼して、認知症・口腔ケア・食事について等、ホーム主催の介護教室を開催している。気分を盛り上げるために、ご利用者が浴衣やハッピーを着て地域の夏祭りに参加したり、日頃からボランティアも多数受け入れられている。地域の方が、サークルに参加するような感覚で、ホームに遊びに来て頂けるような取り組みを検討されている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム長の奥様(理事)の親の病気を機に、長崎に帰省し介護をする中で“人間らしく楽しく余生を送らせたい”“あるがままに自分らしくあって欲しい”という思いを込め平成15年2月に開設した。地域密着型サービスの役割を考えると共に、理念が長いと言う職員の意見もあった為、全職員と話し合って3年前に「地域の一員として、衛生的な環境の下、自己実現を目指す、あなたが主役です」という環境に作りかえた。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ケア会議や月2回の全体会議の時に全員で理念を唱和し、ホーム長が「入居者が主役である、あるがままを受け入れるよう」と常に伝え、意見交換をしながらケアの統一を図っている。職員自身「入居者が主役」と意識しており言葉の端々にも現れ、日々のケアの場面でも、ご利用者の意志を尊重し、繰り返しの言動や希望にも寄り添い対応する等、実践の中で理念が活かされている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	保育所との交流や公民館祭りの参加、誰もが通るホーム周囲の道の草刈、近くの川掃除等はホーム長や職員がボランティアで行っている。町内会に入っているご利用者もおられ、地域の寄り合いに参加している。市の委託による介護教室やホーム長の知人に講師を依頼して、認知症・口腔ケア・食事について等、ホーム主催の介護教室を開催している。気分を盛り上げるために、ご利用者が浴衣やハッピーを着て地域の夏祭りに参加したり、日頃からボランティアも多数受け入れられている。	○	介護教室への参加者をもっと増やしたいとホーム長は考えており、運営推進会議での参加者の意見をもとに、近隣住民に対しアンケートが行われた。アンケート結果を参考にして、研修テーマを検討すると共に、在宅で生活する高齢者がサークルに参加するような気軽な感覚でホームに来ていただけるようなホームにして行きたいと考えられている。今後の更なる取り組みに期待していきたい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ホーム長が評価の目的や活用方法を説明し、職員で分担して話し合いながら自己評価を行い、管理者がまとめる際、職員と話し合い項目についての説明を付け加えた。前回の外部評価結果に基づいて運営推進会議で報告し、参加者に意見・要望などを確認した。出された意見を元に改善策を全職員で検討し、改善計画書を作成し改善に向けた取り組みが行われている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族、市職員、公民館長、民生委員、ボランティアの方をメンバーとして2ヶ月に1回開催している。在宅介護の問題点、介護教室の運営についての課題などを報告し意見交換が行われている。会議への積極的参加を促す為に、会議で出された意見に対するホームの取り組み状況や、取り上げて欲しい内容をお尋ねしたり、次回の議題に関する資料を予め配布している。出席者からの意見を元に、地域住民にアンケートを実施し、公民館長の依頼で地区の担当者がアンケートを配布し、回収していただくなどの協力も頂くことができた。	○	運営推進会議の開催時間が、出席者の都合等から夜の7時開始となり、それまで参加していたご利用者が“きつい”ということで、会議への出席ができなくなった。ご利用者も参加できる開催時間の再検討と共に、ご利用者から議題に関する意見を事前に伺っておくなどの工夫をされてみてはいかががであろうか。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の委託により介護教室を定期的に行っている。前回の外部評価以降、市の窓口を訪れ、ホームの機関紙である“さわやか便り”を定期的にお届けしている。病気で入院しても治療が途中にも関わらず退院を勧められるケースが多い。在宅介護が困難な現状から、ホーム入居を希望されることで、市や病院、施設と協力して地域の認知症の方々が安心して暮らせる町にしたいとホーム長は考えている。	○	認知症があっても、安心して暮らせる町づくりを目指すためには、市町村との連携は欠かせないものと思われる。ホームの現状や在宅で暮らす高齢者の現状など、ホームが知り得た情報を今後も市の担当者と共有し、一緒に検討していける関係になっていくことを期待したい。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご利用者全員の日々の様子を写真に撮り“さわやか便り”に掲載し、出納帳のコピーと領収書、請求書を一緒に送付し家族来訪時に日頃の暮らしぶりを報告している。当・翌月の行事や予定、施設長のコラム等、家族の方が楽しみにして読まれている様子をご家族の言葉の中からも感じられる。月1回の定期受診結果は、薬の変更や体調に変化がない時でも、受診日か翌日に電話で報告している。前回の外部評価以降、職員の異動についてもさわやか便りに掲載し紹介している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族に無記名アンケートを年1回実施し、頂いたご意見に対してその都度対応し状況説明等行っている。運営推進会議の時にも何かあればいつでも言って頂くようお願いしたり、行事案内を郵送する時に意見・要望を書いて頂く用紙を同封し、ご意見と共にお礼の手紙を頂いたりしている。ご意見等を頂いた時には職員間で情報共有し対応策を話し合っている。「ホームの場所が分かりにくいのでは」というご家族からのご意見をもとに、主要道路からよく見える場所に看板の設置が行われた。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	前回の外部評価以降、家族介護の為に退職者以外に職員の離職はない。夜勤の翌日を休みにし十分に休息できる体制にしたり、調理専門職員や基準以上の人員を配置し、介護業務に専念できるよう配慮されている。先輩職員や管理者が悩みを聴いたり食事会等親睦の場を設け職員のストレス解消に努めている。新規職員と1か月の引き継ぎ期間を取り、情報提供や指導を十分に行っている。管理者を兼務するホーム長自身も一職員として勤務され、夜勤にも入ることで、職員の負担軽減に努めておられる。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月2回の会議の時に介護・医療についてホーム長が新しい情報を提供したり、介護用品の必要性や効果、職員入職時には救急蘇生法等、定期的な研修を行っている。認知症実践者研修・県や市町村主催・事業者協議会主催の外部研修、防火管理者講習等に参加し、伝達講習を行ったり資料の回覧や配布をし、ケアの現場に還元出来ている。職員の経験年数やベースの資格をもとに、段階的に力をつけていけるようレベルに応じた研修を受講させているが、更なるレベルアップに努めていきたいとホーム長は考えている。	○	昨年10月に職員を増員したことで、研修に参加しやすい体制となった。ご利用者主体の介護についてホーム内で勉強会が行われ、疾患の理解や対応の仕方など職員は理解できているが、更なる工夫がケアに活かせるように研修を工夫していきたいとホーム長は考えている。職員のレベル向上にむけた更なる取り組みに今後も期待していきたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	佐世保市グループホーム連絡協議会・介護支援専門員連絡会等にホーム長・ケアマネジャー・職員が参加し、同業者との交流や意見交換が行われている。他ホームからの訪問や見学等来て頂いているが、他ホームへの職員の受け入れについては、ホーム長が依頼を行っているが、受け入れ可能なホームが少ない現状である。	○	職員が他のホームを訪問することで、新たな気付きやケアの見直しにつながるきっかけ作りになるとと思われる。同業者とのネットワーク作りに向けた取り組みを、今後もあきらめずに取り組まれることを期待していきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にホーム長が自宅や病院に伺う等ご本人・ご家族と顔馴染みの関係作りを努めている。身寄りがない方には、民生委員・町会長・ケアマネジャー・ソーシャルワーカーが付き添いホームの見学に来られ、ご利用者や職員と談笑されたり、ご本人・付き添い者から、生活習慣・環境等の情報収集を行い、職員会議で情報の共有を図っている。入居後は、ご家族や顔馴染みの方に出来るだけ頻りに訪問して頂いている。ご利用者が住んでいた地域の話しや家での様子などを職員が伺いながら会話を引き出し、徐々にホームの生活に馴染んでいただけるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご利用者全員が女性ということもあり、料理の味付け、包丁の使い方(野菜の切り方など)、塗り絵の色の使い方など、職員が教えて頂くことが多い。物の少ない時代を経験してこられたことから、“物を大事にする”ということも教えて頂くこともあった。また、男性職員は裁縫やお茶の入れ方・お茶の葉のブレンドの仕方を教えて頂いている。精神的・身体的な不安をご利用者と共に共有することで、お互いに支えあう関係が築かれている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者が“したいと思う事が出来る”を基本にして、生活歴・習慣・趣味等を出来る限り把握している。歩行困難なご利用者が「自由にフロアを歩きたい」、手の麻痺があるご利用者が「自分で食事を食べたい」などの意向を確認している。明確に意向を表明して頂けないご利用者には、声をかけたり行動や表情から思いを汲みとり、時には言葉かけの仕方を変えたり物品を示したりして様子を観察し、どのような暮らしを望んでいるのか職員・ご家族を含めて検討するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご利用者一人ひとりの状況・思い・生活習慣・好み等を踏まえ『その人らしく暮らし続ける』為の個別・具体的な課題・目標は盛り込まれているが、『地域で暮らす』という視点は盛り込まれていない方もいる。療養記録には日々の様子が細かく記録され、会議では職員の気付き等意見が出され計画に反映されている。日々のケアについても職員間で共有出来ている。	○	『地域で暮らす』という視点で課題・目標を設定することで、地域密着型サービスを反映した介護計画になるものと考えられる。今後の取り組みに期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	新たな要望や変化が見られない時も、毎月のケア会議で全ご利用者について検討を行い、3ヶ月毎に計画を見直している。ご利用者やご家族の要望・状態変化が生じた場合は、設定した時期に関わらず臨機応変に見直しを行っている。見直しをした計画書は職員1人ひとりが手元に保管しており、ケアの際に気付いた事を記入し会議の時に情報交換し計画に反映させている。計画の見直しについて、ご家族に意見を求めるが「わかりました」ということで、意見が少なく計画に充分反映できているとはいえない。	○	計画の見直しをする過程において、ご家族・職員以外の関係者に面会時に気づいたことや、疑問に感じたことなど無いかなど、相談したり、助言を求めてみてはいかががであろうか。ご家族にも介護計画の意義を分かりやすく説明すると共に、ご利用者のための計画であることを理解して頂き、ご家族の意見や助言が得られるようになることを期待していきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホーム長や計画作成担当者が看護師ということもあり、医療機関といつでも連絡・相談が出来る医療連携体制を取っている。病院受診や外泊時の送迎や、遠方から帰省するご家族と自宅が集う為に職員が車椅子で送迎したり、駅へ帰省されるご家族を見送りに行ったりしている。入居の為の準備から引っ越し迄を手伝ったり、ご家族と交代で入院中の付き添いを行ったこともある。墓参り等の特別な外出支援も行われている。ご利用者の不安軽減のために、永年一緒に暮らしていた猫との同居を許可するなど、柔軟な対応も行われている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に希望する医療機関をお聞きし本人の思いを大切に、以前からのかかりつけ医での受療や事業所の協力医療機関で受療して頂き、必要に応じて専門医を紹介している。主にホーム長や職員が通院介助を行っている。受診結果は受診当日か翌日には報告している。ご家族だけで介助された時も受診結果をお聞きし把握出来ている。協力医療機関の医師から、携帯番号を教えて頂いているため、夜間の連絡も可能となっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームで看取りをする方針で、入居時に“看取りの指針”をお渡ししご利用者・ご家族の意向を確認すると共に、日々の生活の中のご本人の言葉等から意向を確認している。現時点で、ホームでの看取り希望者は4名おられる。事業所でも対応できる状況について、協力医療機関医師・かかりつけ医・関係する専門職や職員と話し合いを行っている。往診可能でホーム長と職員の一人が看護職で24時間対応できる状況であり、状態の変化があった時等、繰り返し頻回に話し合いを行っている。	○	ご家族も泊まれるように、広めの居室、2部屋を看取りになっても対応できるように改造予定で、酸素吸入器(HOT)の購入、または、酸素パイピング装置の設置等を検討されている。ストレッチャー対応のシャワー設備も検討中で、浴室の改造も予定されている。ご利用者のためなら、お金がかかっても、設備投資することは苦にならないというホーム長の考えがあり、実現に向けた今後の取り組みに期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ホームの理念に基づき、目上の方に対する尊敬の念を持って接し、トイレ誘導の声かけや介助時は自尊心・羞恥心に配慮し小声でさりげなく行っている。ご利用者の繰り返しの言動・記憶違いに対しても否定したり指導的な言動は取らないようにし、健康状態・ケアの内容等ご利用者の前で申し送りをしないようにしている。個人情報保護について全職員が理解し情報の漏えい防止の対策を徹底させている。職員に対し、入職時に個人情報保護に関する契約書を書いて頂いている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの理念である“あなたが主役”に則り、ご本人がしたいことを聞いて、自由に過ごして頂いている。ホームの日課は、生活リズムが取れるよう声かけ・誘導はするが、無理強いはしていない。リハビリや運動等本人にとって必要な事はご利用者の気が向くのを待って、時間を変更して実施している。希望を表出されない時にも興味を引きそうな事を話し合い、諦めない支援が行われている。食事・入浴や家事等にかかり時間がかかる方も、健康に支障のない範囲で納得されるまでゆっくり最後迄して頂いている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物をお聞きし献立に反映したり、皮むきや根切り等の調理の下ごしらえや食後の後片付け等、行ってもらっている。できる範囲が少なくなっている方も座って出来る事をして頂いている。旬の食材や菜園で採れた新鮮な野菜等を使って専門の職員が調理しており、食事制限がある方も器や盛り付けを工夫している。職員も一緒に食卓に着いたり、時折回転ずし等の外食に行くなど、食事が楽しめるよう支援している。ホーム長手作りのおやつもご利用者・ご家族から好評を頂いている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	時間帯をある程度決めているが体調に無理のない範囲で時間・湯温の希望に合わせ、入浴の順番・シャンプー・入浴剤の好みなど伺っている。希望があれば毎日の入浴にも対応している。ご利用者に入浴準備をして頂いたり、危険がない部分は職員も浴室の外に出て扉の外から様子を伺ったり、個浴や同姓介助等配慮している。菖蒲湯・ゆず湯や日帰り温泉に行くなどの取り組みも行われている。入浴を拒否される時は入浴したい気分になるよう、まずは足浴からはじめるなどの対応がされている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ご利用者の趣味や得意なことを取り入れた、大正琴・ギター演奏・塗り絵・活け花・水彩画など多数のレクリエーションが計画されており、毎日のようにボランティアの方々が訪問して下さっている。音楽療法や運動療法も行われているが、ご利用者の気分や体調に合わせて自由に参加して頂いている。ご利用者ごとに役割を持ってお手伝いして頂き、レクリエーションにも参加して頂いているが、レクリエーションの内容によっては、加齢に伴って参加されるご利用者が減少してきていることから、1人ひとりに合わせたレクリエーションの必要性を職員は感じている。	○	毎日のようにボランティアの方が訪問して下さることを、ご利用者は楽しみにされており、外部の方と触れ合う良い機会作りとなっている。ボランティアの方の協力は継続した上で、ご利用者の方々が以前は喜んで参加されていたレクリエーションに、加齢と共に疲れるからと参加されなくなってきた現状から、参加しやすいレクリエーションについて、職員以外の方にも意見を伺ったり、外部で行われているレクリエーションに関する研修に参加してみられてはどうかであろうか。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム周囲や自宅迄の散歩や買い物・ドライブ、本人の希望や彼岸の時には職員が声かけし、お墓参りに職員が付き添う等日常的に外出している。身体的に外出が困難な方や好まれない方に対しても、気分転換や五感刺激として戸外で過ごす機会を確保し、希望をお聞きしたり習慣や関心事等を踏まえて気持ちを察して対応する等、積極的に支援を行っている。外出時、長距離の場合など全員が車椅子となるため、職員以外にもご家族やボランティアの方の協力も頂いている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵を掛けることの弊害を十分理解したうえで、防犯上の理由から、玄関は施錠しているがボタンを押せば、中から自由に外へ出られるような電気錠となっている。職員が作業する場所や立つ向きを工夫したり、玄関等にセンサーを付けている。以前、近隣で起こった事件を教訓に、ご利用者の安全性確保の目的で、外部からの侵入を防ぐために、ご家族から“鍵を掛けておいて欲しい”と云う要望を重視し、状況が変わらない限り現在の状況のままに方針である。	○	防犯上の理由から、ご家族の要望もあり日中も施錠されているが、事件以降年数も経過していることから、ご利用者が自由に外出できる取り組みの検討を続けていただけることを期待したい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月会議の時に、ご利用者に対して火事を想定した避難訓練のお知らせをし、避難誘導終了迄の時間を測り、冷静に対応できるよう昼夜を想定した訓練に取り組んでいる。運営推進会議で避難時の協力をお願いすると共に、地域の方に災害時の協力依頼は特にされていないが、派出所・消防署につながる非常通報装置の設置や、職員・ご家族の連絡網もあり、ご利用者のご家族の応援を頂ける状況である。災害時の備蓄については特に準備されていない。	○	地域の方に災害時の協力依頼をされると共に、今後、消防署の方を招いての訓練も検討されることを期待したい。災害に備えたホーム内の備蓄品について、必要物品や必要量等の検討をされてみてはどうかであろうか。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者の好みで調理方法や盛り付けを工夫し、飲み物等選べるようにしている。必要な食事量や飲水量が確保出来ているか確認し、定期的な体重測定・血液検査の結果から医師の助言を頂き、疾患に応じて書籍を使って勉強会を開き味付け等検討している。現状では栄養士によるチェックの必要性を感じていないが、施設長が看護師ということもあり、総合的な栄養バランスの確認が行われている。食が進まないご利用者には、ホーム長手作りの栄養補助食品を使ったゼリー等が好評となっている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下の一角にテーブル・椅子、植え木・生け花が飾られ思い思いに過ごせる場所が確保されている。広いリビングも西側は遮光カーテンで光が調整され、オゾン除菌脱臭機の設置・換気をする事で臭気の停滞に配慮されている。壁には絵画や外出時の写真が飾られたり、ソファーにはひざ掛け・人形等が置かれ居心地良く過ごせる空間作りがされ、対面キッチンで職員は料理やおやつ作りをしながらご利用者と談笑できる造りとなっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベット・2種類の衣装タンスはホームで準備されているが、ご利用者・ご家族と相談し、使い慣れている箆笥やベッド・衣装ケース等個人で持って来て頂いている。人形・時計・ご家族の写真等が飾られ、その人らしい居室づくりがされ、仏壇を持って来られている方には、花や水替え等の支援を行っている。施設の入所の度に不安症状で入・退所を繰り返していた方も、長年生活を共にしていた猫と共にホームに入居された後は、安心して落ち着いた生活環境を維持できている。		